

Ⅱ 令和6年度「男女共同参画に関する県民意識調査」及び「男女間における暴力等に関する調査」の結果概要について

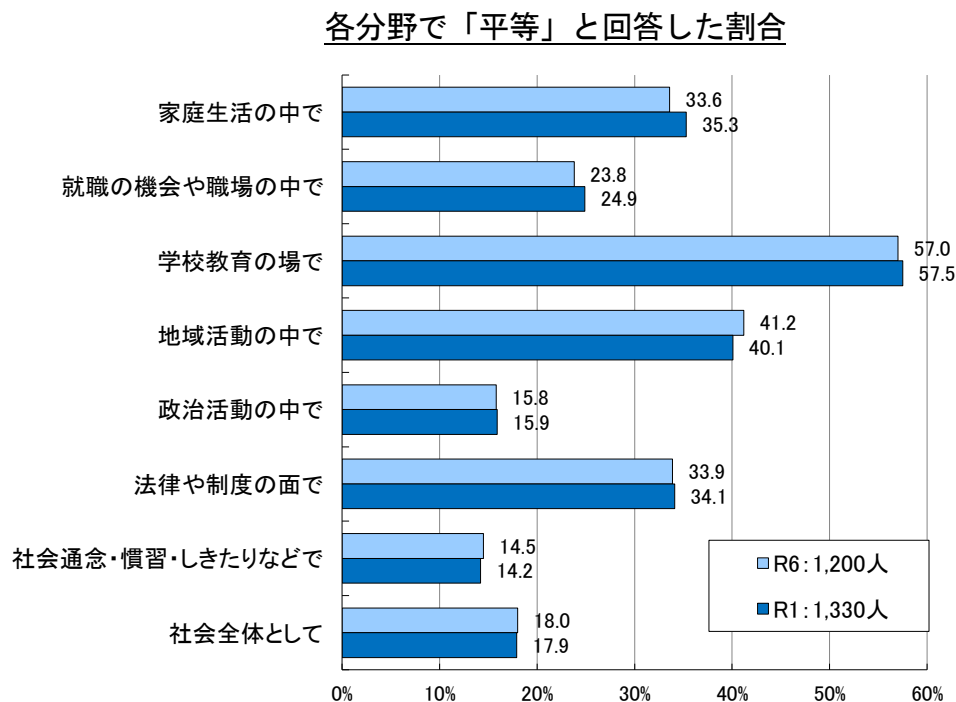
1 調査の概要

調 査 名	男女共同参画に関する県民意識調査	男女間における暴力等に関する調査
調査対象	山口県内居住の満 18 歳以上の男女各 1,500 人 計 3,000 人(各調査) ※市町別・年齢別人口比による割当の上、住民基本台帳により無作為抽出	
調査時期	令和6年9月26日(木)から10月18日(金)まで	
回収数(率)	1,200(40.0%)	1,027(34.2%)

2 「男女共同参画に関する県民意識調査」結果の概要

(1) 男女の地位の平等感：「学校教育の場で」と答えた人が最も多い。

◆「平等」と答えた人の割合は、前回(R1)と比べて各分野において微増減はあるものの、概ね横這いで推移している。

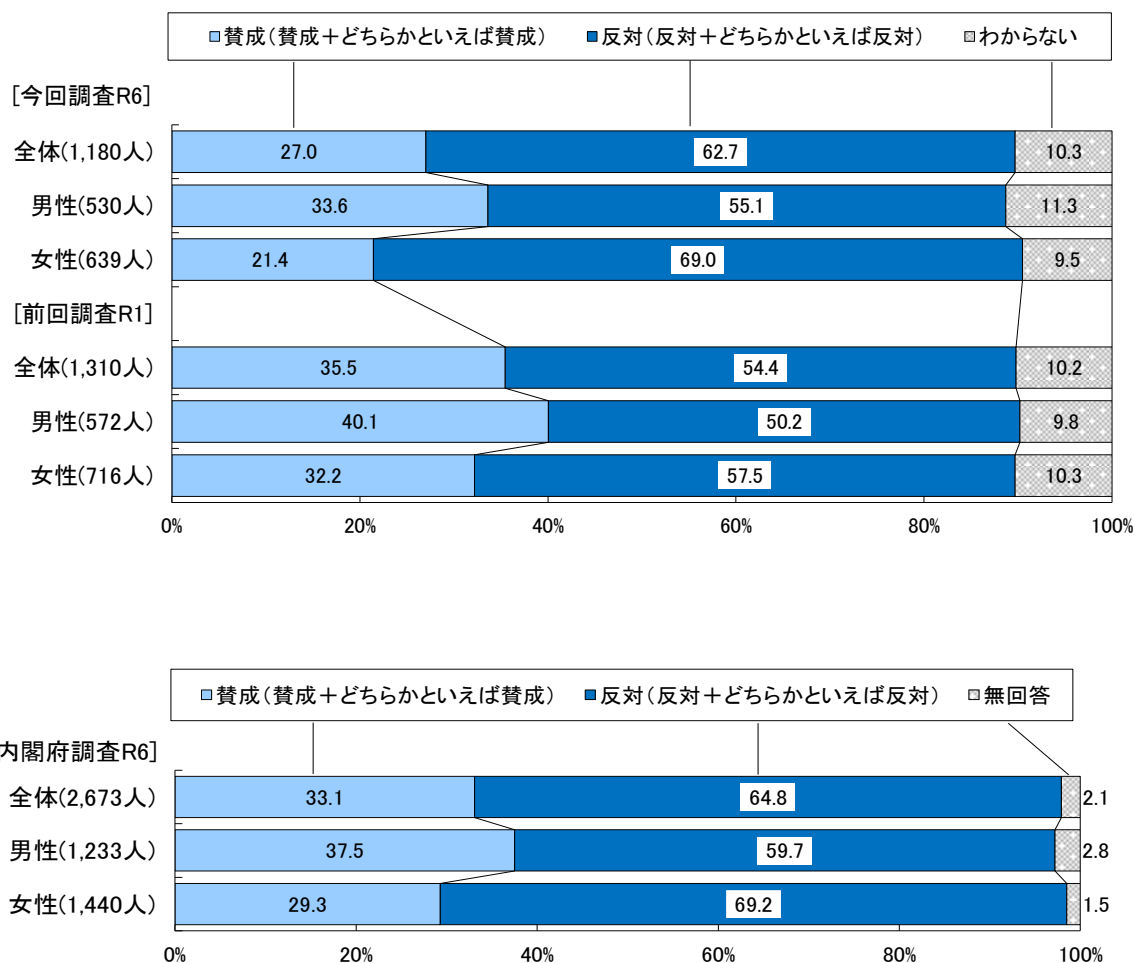


(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方：反対の割合が上昇し、男性においても反対が賛成を上回る

- ◆「男は仕事、女は家庭」という考え方に「反対」が62.7%、「賛成」が27.0%
- ◆男女とも「反対(男性:55.1%、女性:69.0%)」が「賛成(同:33.6%、21.4%)」を上回る。
- ◆全国(R6 内閣府調査)においても、「反対(男性:59.7%、女性:69.2%)」が「賛成(同:37.5%、29.3%)」を上回る。

- ◆賛成の理由は「女性が家庭を守った方が、子供の成長などにとって良いと思うから」(57.5%)、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」(52.2%)
- ◆反対の理由は「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」(71.8%)、「男女平等に反すると思うから」(45.3%)

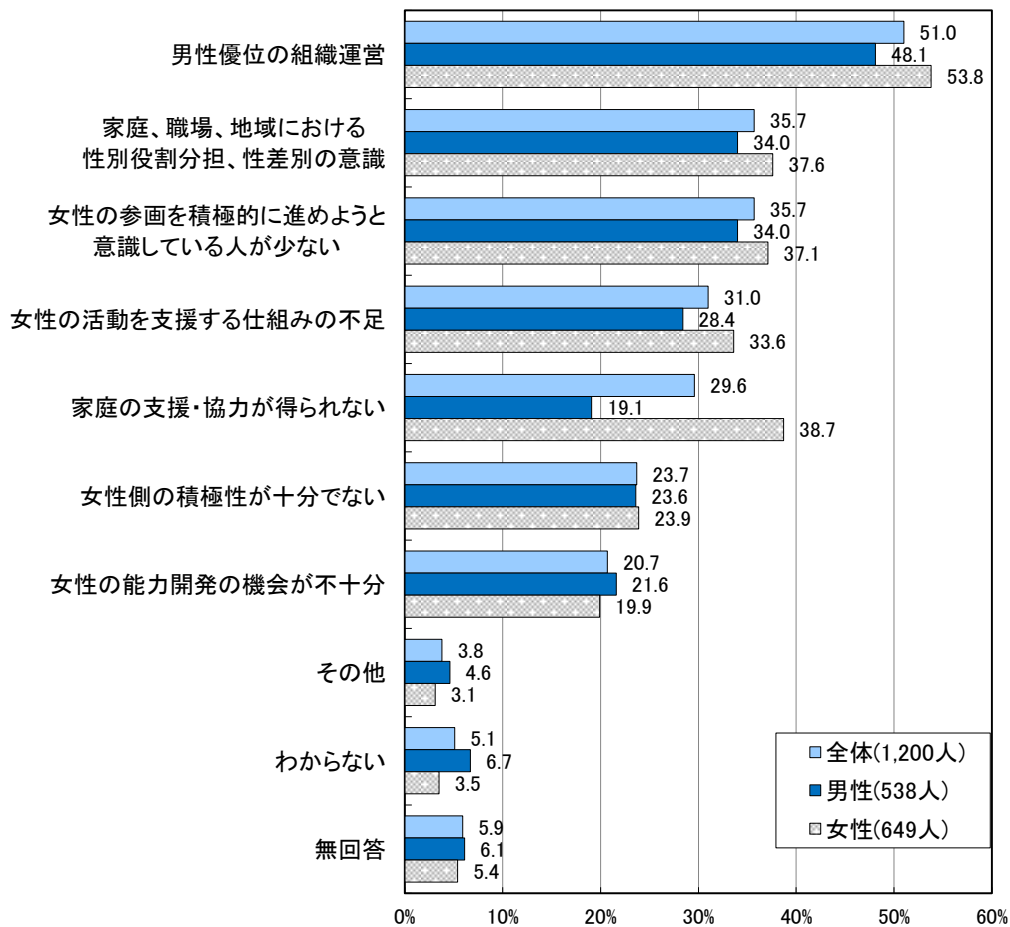
「男は仕事、女は家庭」という考え方について



(3) 社会の中で意思決定の場に女性の参画が少ない理由：「男性優位の組織運営」が1位

- ◆意思決定の場に女性の参画が少ない理由は「男性優位の組織運営」(51.0%)、「家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識」(35.7%)
- ◆女性が活躍できる仕事・職場環境等に必要なことは、「育児・介護との両立について職場の支援制度が整っていること」(68.1%)、「性別に関係なく仕事が適正に評価されること」(56.3%)
- ◆女性の活躍が進むために家族・社会等で必要なことは、「夫の積極的な家事・育児・介護への参加」(72.7%)、「保育施設等の育児サービスの充実」(56.1%)

意思決定の過程に女性の参画が少ない理由



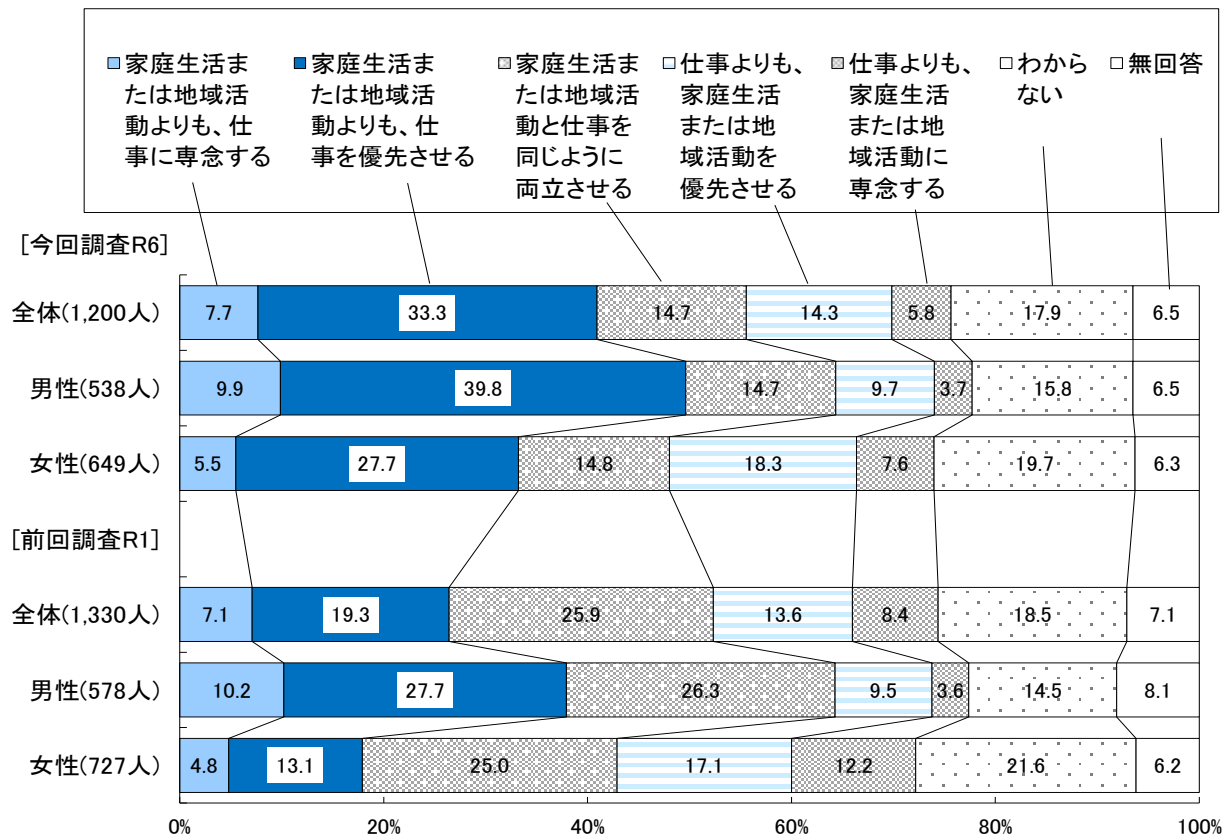
(4) 女性と仕事：「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が1位

- ◆女性が職業を持つことについて、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」(54.0%)、「子どもができたらず仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」(21.2%)
- ◆「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」は前回(R1)の47.6%から54.0%に上昇、「子どもができたらず仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」は27.1%から21.2%に低下。

(5) 仕事と家庭生活・地域活動とのバランス：「両立させる」は2割弱

- ◆仕事と家庭生活・地域活動とのバランスについて、「両立させる」ことへの理想が66.8%に対して、現実では14.7%となっている。
- ◆「両立させる」は前回(R1)の25.9%から14.7%に低下。
- ◆男性が女性とともに育児や介護、家事、地域活動に積極的に参加していくため必要なのは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションを良く図ること」(62.8%)、「男性が育児・家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(62.4%)

仕事と、家庭生活または地域活動とのバランス（現実）



(6) 性の多様性：「自分の性のあり方」について

- ◆性自認、性的指向について悩んだことが「ある」(4.0%)、「ない」(94.3%)
- ◆性の多様性に関する悩みについて相談できる機関として「こころの健康相談(山口県精神保健福祉センター)」(27.6%)、「山口県男女共同参画相談センター」(17.5%)の周知度が高い。
- ◆パートナーシップ宣誓制度について、「言葉も内容も知っている」(20.0%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(45.3%)、「知らない」(33.1%)となっている。
- ◆山口県パートナーシップ宣誓制度開始について、「知っている」(25.4%)、「知らない」(72.8%)となっている。

(7) 用語の周知度：「性的マイノリティ(LGBTQ)」の周知度が上昇

- ◆「性的マイノリティ(LGBTQ)」の周知度が前回(R1)の52.8%から67.7%に上昇。
- ◆「DV(ドメスティック・バイオレンス)」(77.6%)、「男女雇用機会均等法」(73.6%)、「男女共同参画社会」(67.0%)の周知度が高い。

3 「男女間における暴力等に関する調査」結果の概要

(1) 配偶者からの暴力

①「配偶者暴力防止法」の認知度：およそ8割

- ◆「配偶者暴力防止法」について、「法律があることも、その内容も知っている」は13.5%、「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」は66.0%で、合わせて「知っている」は79.5%となっている。

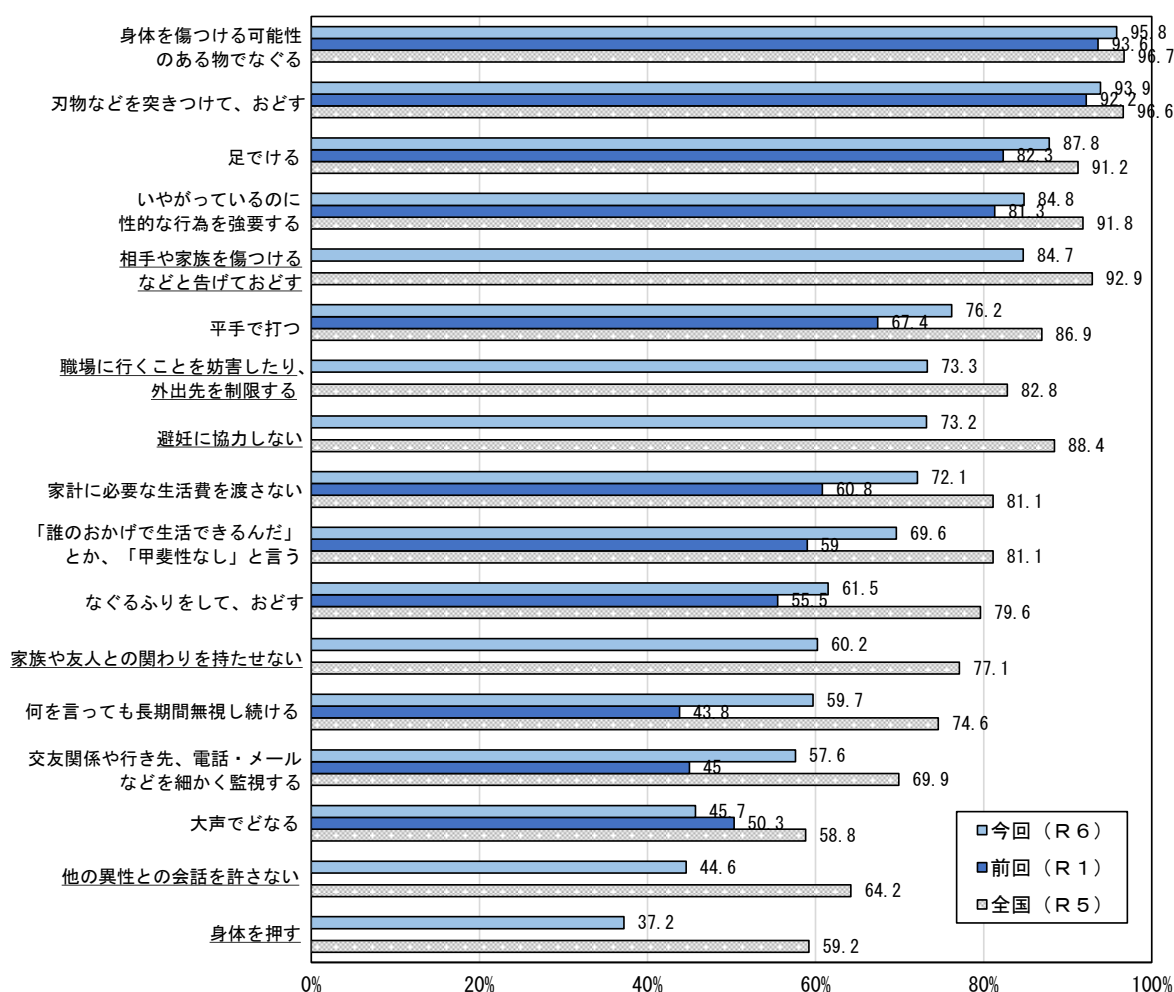
②相談窓口の周知度：「警察」が最も高い

- ◆配偶者からの暴力についての相談窓口の周知度は、「警察」が83.3%と最も高い。
- ◆「山口県男女共同参画相談センター（配偶者暴力相談支援センター）」は、前回(R1)の25.1%から23.5%と1.6ポイント低下。

③配偶者からの暴力と認識される行為：ほぼすべての行為で暴力の認識度合いが上昇

- ◆「大声でどなる」以外の行為については、すべての行為において、「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人が前回(R1)より上昇。

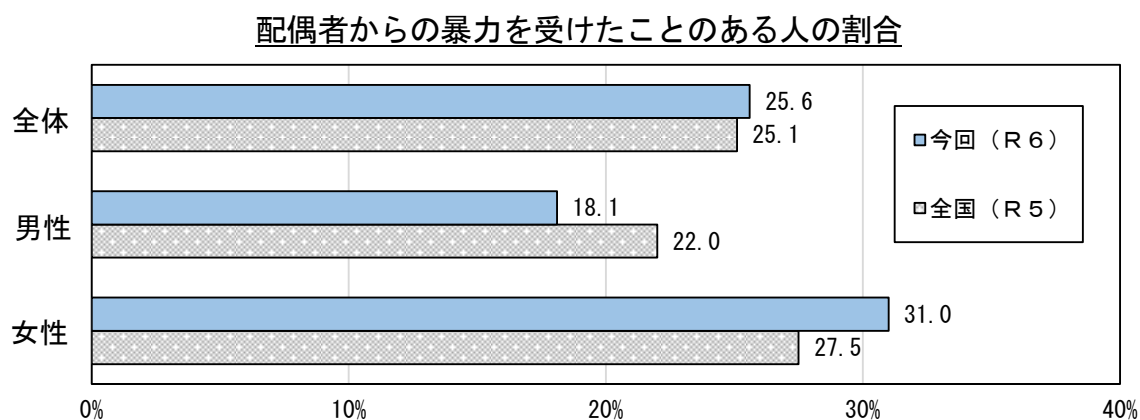
暴力と認識される行為



※下線の選択肢は前回調査ではなし

④配偶者からの暴力の被害経験：約4人に1人が被害経験あり

◆配偶者からの暴力の被害経験は25.6%で、男性の被害経験は18.1%、女性の被害経験は31.0%と男女で開きがある。



⑤配偶者からの暴力の被害に対する相談：どこ（だれ）にも相談していない人が約6割

◆配偶者からの暴力の被害者で、64.8%の人がどこ（だれ）にも相談していない。男女ともに、その割合は同程度となっている。（男性65.2%、女性64.6%）。

◆相談先は家族や親戚、友人・知人が多く、身近な人が多い。

⑥子どもの被害経験：被害経験のある家庭の4分の1は子どもへの被害もみられる

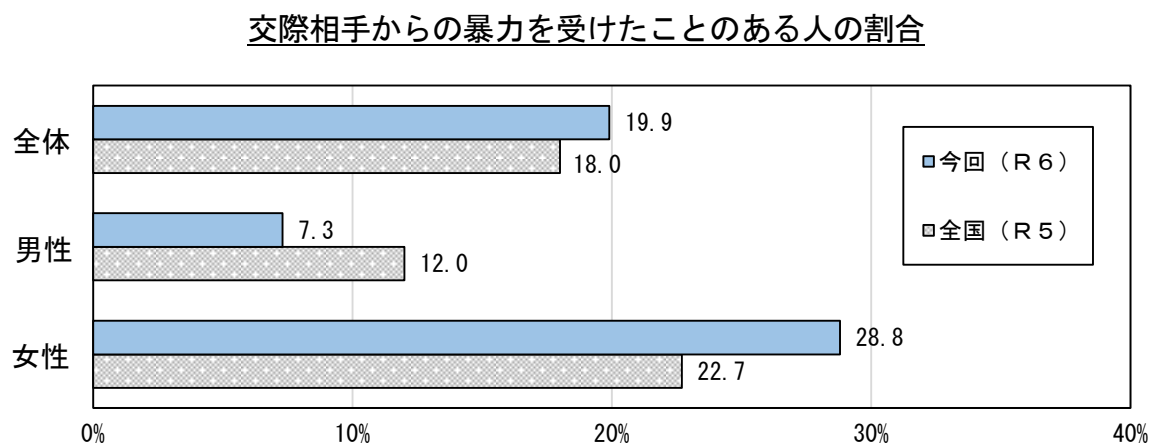
◆配偶者からの暴力の被害経験があり、子どもがいる人の24.9%は、子どもにも何らかの被害がある。

◆子どもの被害経験は、「心理的虐待」が最も多い。

(2) 交際相手からの暴力

①交際相手からの暴力の被害経験：約5人に1人が被害経験あり

◆交際相手からの暴力の被害経験は19.9%で、男性の被害経験が7.3%、女性の被害経験は28.8%と男女で開きがある。



②交際相手からの暴力の被害に対する相談：約5割がどこ（だれ）にも相談していない

◆交際相手からの暴力の被害者で、46.5%の人がどこ（だれ）にも相談していない。

◆相談先は「友人・知人」の割合が最も高く、次いで「家族や親戚」となっており、身近な人が多い。

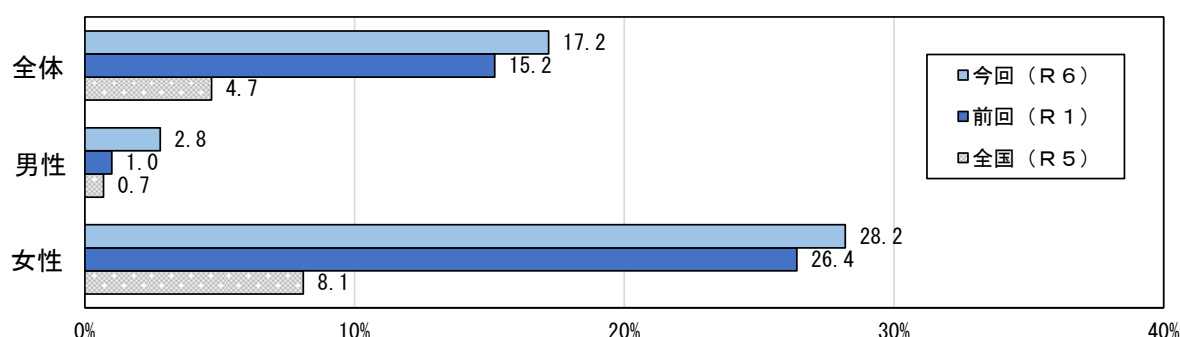
(3) 性暴力※

①性暴力の被害経験：女性の約4人に1人が被害経験あり

◆性暴力の被害経験は17.2%で、男性の被害経験は2.8%、女性の被害経験は28.2%と男女で開きがある。

◆被害経験は前回(R1)の15.2%から17.2%と2.0ポイント上昇。

性暴力を受けたことのある人の割合



②性暴力の被害に対する相談：約5割がどこ（だれ）にも相談していない

◆性暴力の被害者で、48.6%の人がどこ（だれ）にも相談していない。

◆相談先は「友人・知人」の割合が最も高く、次いで「家族や親戚」となっており、身近な人が多い。

③やまぐち性暴力相談ダイヤル「あさがお」の周知度：およそ1割

◆やまぐち性暴力相談ダイヤル「あさがお」を知っている人は9.7%となっており、前回(R1)の6.1%から3.6ポイント上昇。

※性暴力：性交、身体を触られる、痴漢、盗撮などの同意のない・望まない性的な行為

(4) 困難な問題について

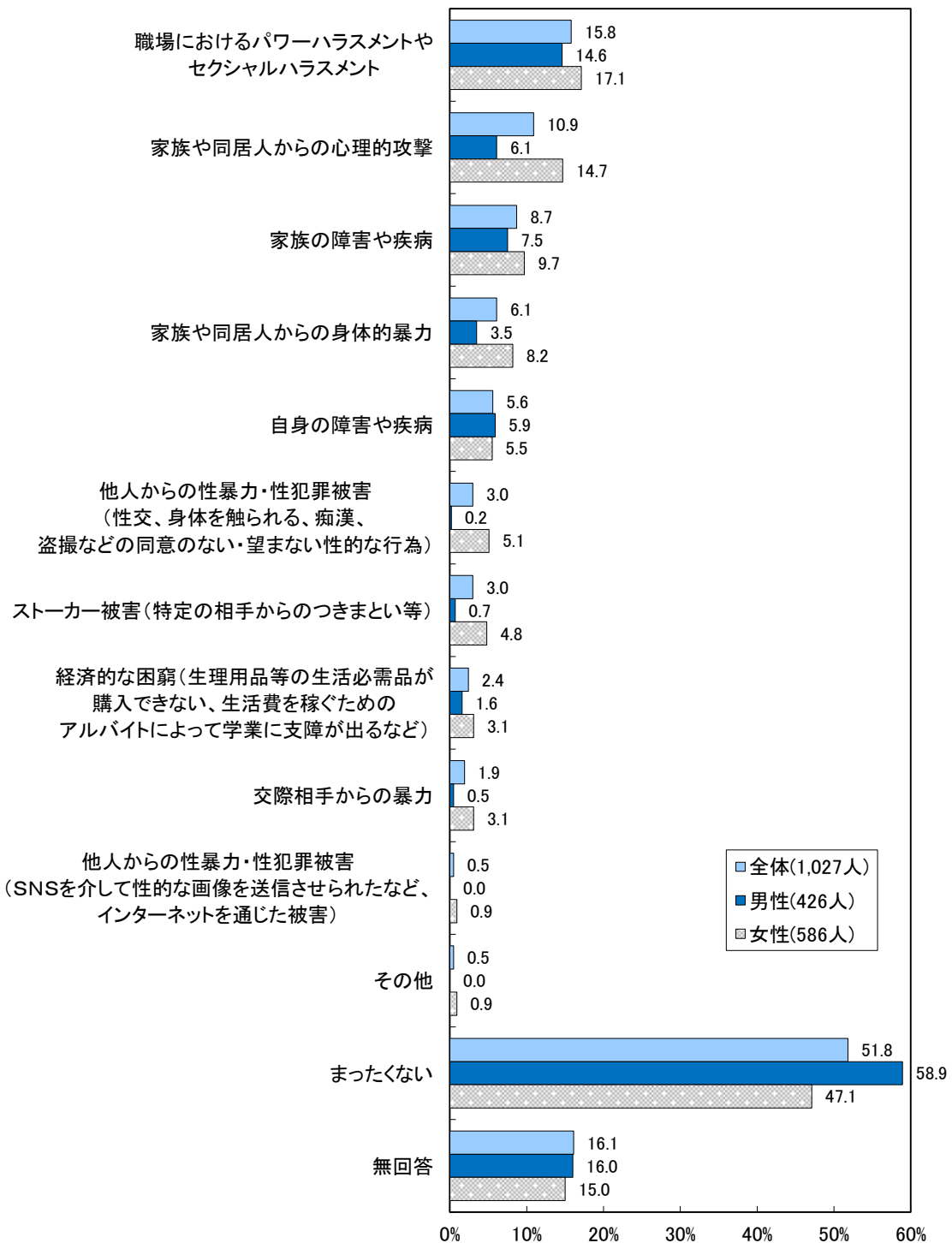
①「困難女性支援法」の認知度：2割弱

◆「困難女性支援法」について、「知っている」は15.3%、「知らなかった」は76.2%となっている。

②これまでに抱えたことのある困難な問題について：女性に多い傾向

◆家族や同居人からの心理的攻撃、身体的暴力、性暴力被害やストーカー被害など、困難な問題を抱えた経験は女性の方が多い傾向がある。

これまでに抱えたことのある困難な問題の割合



4 男女共同参画基本計画における目標指数の進捗状況

目標指標 64 項目のうち 16 項目が該当

男女共同参画に関する県民意識調査 での関連項目	全国		山口県			目標値
	R4(%)	R6(%)	R1(%)	R6(%)	数値差	
男女の地位の平等感(平等と感じる人の割合)						
家庭生活の中で	31.7	30.0	35.3	33.6	-1.7	増加させる
就職の機会や職場の中で	26.4	25.8	24.9	23.8	-1.1	増加させる
学校教育の中で	68.1	70.4	57.5	57.0	-0.5	増加させる
地域活動の中で	40.2	40.3	40.1	41.2	1.1	増加させる
政治活動の中で	9.6	9.4	15.9	15.8	-0.1	増加させる
法律や制度の面で	37.0	38.2	34.1	33.9	-0.2	増加させる
社会通念・慣習・しきたりなどで	12.9	16.3	14.2	14.5	0.3	増加させる
社会全体として	14.7	16.7	17.9	18.0	0.1	増加させる
固定的な性別役割分担意識の改革 (「男は仕事、女は家庭」という考えを肯定する者の割合)	33.5	33.1	35.5	27.0	-8.5	減少させる
家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させている人	—	—	25.9	14.7	-11.2	増加させる
「男女共同参画社会」という用語の周知度	—	—	66.0	67.0	1.0	増加させる
男女間における暴力に関する調査 主要項目	全国		山口県			目標値
	R2(%)	R5(%)	R1(%)	R6(%)	数値差	
DVと認識される行為 (どんな場合でも暴力にあたると思う人の割合)						
平手で打つ	82.2	86.9	67.4	76.2	8.8	増加させる
なぐるふりをして、おどす	72.7	79.6	55.5	61.5	6.0	増加させる
いやがっているのに性的な行為を強要する	88.3	91.8	81.3	84.8	3.5	増加させる
男女共同参画相談センターの認知度	—	—	25.1	23.5	-1.6	増加させる
DV被害について、どこ(だれ)にも相談していない割合	47.4	44.2	60.8	64.8	4.0	減少させる